

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600476
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	愛媛県喜多郡内子町平岡甲1243番地1 (TEL)0893-44-4555
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*ホームは利用者にとって慣れ親しんだ山や川に囲まれ、河川や公園に隣接しており、四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に立っている。又、ホーム内のリビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。
*職員は自主的に月1回の勉強会を行い、自己啓発やサービスの質の向上に努めている。
*1日が、気持ちよく始まり、気持ちよく終わる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小田川の土手沿いにある開設してから10年目を迎える事業所は、自然豊かな環境である。職員の年齢層は幅広く、日々の業務の中で経験豊かな職員が新入職員の相談に応じたり、指導したりする関係づくりができています。職員が持ち回りで講師を務める自主勉強会を開催しており、時間外にもかかわらず多くの職員が参加し、プロ意識を持って利用者へのサービスの向上を目指している。「澄みきった『あおぞら』のように、かかわる全ての人々が、精神的にも肉体的にも、健やかで、朗らかな生活がおくれるように支援いたします」という理念を作成し、利用者の目線で寄り添うことを大切にしながらケアをしている。利用者の希望に応じて、車いすの利用者などできるだけ全員で外出できるよう工夫している。また、家族のように親密になった利用者を最期までケアできるよう看取り等の勉強会を継続して実施しており、協力医と24時間体制ので医療連携を整え、家族の協力を得ながら看取り支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 土居洋子

評価完了日 平成 26 年 11 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時から社長夫婦の想いをこめて作られた理念が掲げられている。職員は理念を踏まえて一人ひとりが具体的に個人目標を立て、常に理念を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 「私たちは、澄みきった『あおぞら』のように、かかわる全ての人々が、精神的にも肉体的にも、健やかで、朗らかな生活がおくれるように支援いたします」という理念を開設当初に作成し、大切に継続している。職員は理念に基づいて個人目標を作成し、日々サービスの向上に努めている。管理者は職員に利用者の目線で思いをくみ取りながら寄り添った支援をしてほしいと考えており、理念に沿った生活が送られ続けるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、回覧板等にて地域の行事などを把握し、積極的に参加している。花いっぱい運動の一環として事業所前の花の世話をしたり、地域の秋祭りに神輿や獅子舞いが来てくれたり、小学生が慰問に来てくれたり等地域との繋がりや交流を大切にしている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地区の清掃デイや防災訓練などの地域行事に積極的に参加協力して交流をしている。花いっぱい運動の一環で自治会が事業所に花を持ってきてくれ、プランターに植えて利用者が水やりをして育てている。いかざき大風合戦では、地区住民が事業所名が入った凧を作って上げてくれ、利用者と一緒に観戦している。ギター演奏や日舞などボランティア、小学生などの訪問があり、利用者は交流を楽しみにしている。クリスマスにはサンタクロースの恰好をした幼児の訪問があり、和太鼓の演奏や交流をしている。また、他のグループホームとの合同大運動会には7名の利用者が参加し、利用者同士の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホーム共同主体で、愛媛県在宅介護研修センターの先生による出前講演会を開催し、町内の民生委員様はじめ多数の近隣の方に出席して頂いている。今後も広く地域に啓発しながら地域ネットワーク作りにおいても活かしていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	<p>(自己評価) 町担当者、地域代表者、家族等のメンバーで約2か月に1回開 催し事業所の現状や行事、課題等を報告している。又、講演会 や運動会を合わせて行うなど多くの方に参加して頂けるよう努 力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、人権擁護委 員、区長、自治会長、町担当者等の参加を得て開催している。 会議に区長や自治会長が参加するようになってから事業所の町 内会への加入が実現し、町内との交流がより深まっている。会 議では事業所の近況や活動報告を行うほか、参加者と感染症な ど時折の課題について話し合いをしている。会議に合わせて開 催する認知症講演会などには多くの地域住民の参加があり、看 取りなどを地域で考える機会にも繋がっている。より多くの家 族や駐在所など幅広く会議への参加の呼びかけも継続してい る。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 町担当者は運営推進会議にも参加し、事業所の現状を理解して いる。又利用者の生活福祉の支援上の課題等について相談した り研修のお知らせなどがあり、相互の協力関係築けている。介 護相談員派遣事業の実施で、訪問活動も予定されている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に出席して情報交換をするほか、行政 説明やアドバイスをもらうなど、事業所の実情を理解しても らっている。町役場は事業所の近くにあるため、相談がある場 合は窓口に出向き指導を受けている。今年度から介護相談員が 2名訪問してくれることになり、利用者との交流ができること を期待している。また、町内の7事業所の集まるグループホー ム連絡協議会があり、相互の勉強会や意見交換をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所で行う内部研修や勉強会で、職員全員が身体拘束にあ たる行為やその弊害について学習し、職員同士で話し合いなが ら身体拘束のないケアを実施している。又、職員同士で注意し ながら言葉での拘束をしないよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では身体拘束のみならず、言葉での拘束もしないケアに 取り組んでいる。管理者は申し送りやカンファレンス時に拘束 について話し合ったり、禁止の対象となる具体的な行為を目に 付く場所に貼ったりするなど、職員の意識づけに努めている。 立位がとれず転倒の危険のある利用者には、夜間ベッド横に マットレスを敷いて対応している。また、気になることがある 場合は、職員間で注意し合い利用者の自由な生活を支援してい る。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行い職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行い職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて十分納得して頂くよう、説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 事業所に対する意見や要望は意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議を通じて意見や思いを表せる場を設けている。又、家族来訪時はお茶をお出しし気軽に会話しながら、会話の中から要望を聞き取るよう心掛けている。	
			(外部評価) 家族の面会時には必ず職員が声をかけ、利用者の様子を報告し意見を聞くようにしている。どの職員も家族と気軽に接することができおり、信頼関係づくりに努めている。運営推進会議にも家族の参加を呼びかけ、交流や意見交換の場に繋がっている。出された意見は職員間で話し合うなど、迅速に対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員は日々の支援の中での気づきや思いを、各部門責任者（リーダー不在の為行事、研修、会議等々に設置）に話し管理者や代表者に伝える。代表者や管理者は出された要望等に必ず返答を行っている。年2回人事考課を行い、代表者は職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。 (外部評価) 職員は毎年理念に沿った個人目標を立て、管理者と年2回個別面談を実施しており、意見を伝えることができる。職員の年齢層は幅広く、日々の業務の中で経験豊かな職員が新入職員の相談に応じたり、指導したりする関係づくりができています。職員はプロ意識を持って利用者へのサービスを向上したいという姿勢で支援しており、事業所では勉強会や外部研修へ参加できる機会があり後押しをしている。また、経験に合わせた研修の機会が持てるよう、研修経費の助成等をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回（夏・冬）に人事考課を行い、職員と面談をして、自己評価、上司評価を行い、昇給、賞与等を決めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の知識、経験等を考慮して、レベルに合った研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内のグループホーム連絡会にて月1回の管理者会を実施。又、町内グループホーム合同の運動会や講演会、職員勉強会を実施し、サービスの質の向上にも取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問し本人の言葉に耳を傾けるようにしている。不安や要望等、言葉の端々からも感じ取り、納得のいく話し合いが出来るよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族の困っておられる事、不安なこと、要望等に耳を傾け、まず必要としている支援を見極めながら話し合い、受け止めるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人、家族と十分に話し合い、本人が自宅で暮らしを希望している場合は、在宅でのケアサービスの調整をしての暮らしの可能性等、家族やケアマネージャー等と話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は「同じ目線で自然体で接する」ことを心掛け、利用者と一緒に手作業等行いながら、利用者の経験を通しての教訓を教わったりしている。「ありがとう」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に、近況報告等に留まらず、家に居られた頃の様子や要望等話して頂き、「利用者が自分らしく心地良く過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。又、電話や定期的な手紙でも関係を築く努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の訪問があったり、行きつけの理容店にお連れしている。入所前から行かれていた教会へ、毎週日曜日に知人の車で礼拝にも行かれる方もおり、馴染みの関係が継続するよう取り組んでいる。 (外部評価) 利用開始前に一人暮らしをしていた利用者には、自宅の近隣住民が気にかけて面会に来てくれている。毎週知人や牧師さんが事業所に迎えに来てくれ、一緒に日曜礼拝に出かける利用者もいる。また、利用者の希望に応じて、馴染みの理容室や銀行などに職員が付き添って出かけられるよう支援している。また、利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 不穏になられた利用者をそっと見守る雰囲気作りをしたり、トラブル時は勿論だが、楽しい時も利用者同士が関わり合えるよう間に入り、一緒に解決したり喜び合ったりし孤立がないよう努めている。又、性格や社交性等踏まえ、気の合う方との席の配慮も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けをし、継続的な関わりが保てるよう心掛けている。又、何時でもできる限り相談に乗りアドバイスが出来るよう心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用開始時に、本人、家族や関係者から様子を聞き取ったり、本人との日常会話の中や、特に入浴介護などの1対1になれる場面で思いを聞いている。が、重度化が進み聞き取ることが難しい利用者については、日常生活のしぐさや表情などから思いや意向をくみ取るように努めている。 (外部評価) 日頃から職員は利用者と同じ目線で接し、利用者の思いや意向を聞くよう努めている。利用者のことをよく理解するために、家族から利用者の生活歴、趣味、環境を聞き取っている。言葉で伝えにくい利用者には、利用者の行動や様子など普段の生活から推察し、思いをくみ取るよう努めている。入浴時には利用者と1対1となるため、思いを聞き取ることも多い。聞き取った内容は記録し、職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人、家族との話し合いの中で一人ひとりの生活歴や、馴染の暮らし方、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや様子観察、医療機関との連携等により、心身状態を把握し、一人ひとりに寄り添い、出来る力を見極め、ゆっくり待つ、見守る大切さを常に心掛けている。コミュニケーションを密に取り出来る限り本人の想いを汲み取っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当をおき、中心となって毎月モニタリング実施。他の職員からの情報収集も行い、課題や気付き等を計画作成担当者に報告。計画作成担当者は本人、家族の意見要望を聞き、職員からの情報も交え現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者毎の担当職員を決め、毎月モニタリングを実施している。経過記録は介護計画の実施状況をチェックする様式になっており、モニタリングや計画の見直しに活用している。利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをするほか、6か月毎に介護計画の見直しをしている。作成した介護計画は手紙を添えて家族に送付して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の状態の変化や重要事項等は、赤青ペンを使用し注意しやすくしている。記録はその日の勤務者全員が関わるようにしている。その時に関わった職員が詳しく記入することにより、他職員も情報習得している。又、こまめにモニタリングも行い実践や介護計画見直しに繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院、銀行、不在者投票、買い物等への同行や、馴染の理容所にお連れしたり、自宅付近へドライブしたりと本人や家族の要望に応じて柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要時速やかに対応できる地域資源の発掘や、関わりに努力している。必要に応じて地域資源と共同しながら支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を行っている。通 院介助は職員が対応し、必要に応じて家族にも同行してもらっ ている。協力医療機関の医師の往診が各利用者に月2回づつあ り、緊急時は夜間も対応してくれる。受診結果は、家族に報告 し一人ひとりの受診ノートに受診内容を記録している。 (外部評価) 入居時に希望するかかりつけ医を選択し、継続して受診するこ ともできる。近隣の病院がかかりつけ医の場合は、職員が付き 添い受診できるよう支援している。受診結果は家族に報告した り、家族から情報を聞いたりするなど、受診ノートに記載し相 互の情報共有ができています。また、月2回協力医の往診があ り、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族は安 心感がある。入退院時も職員が付き添い、適切な医療を受けら れるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 「いつもと違う」気づきを大切に、看護師に相談・報告しな がら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は家族と相談しながら、本人に関する情報の提供を行っ ている。消耗品の補充や洗濯物の管理等行いながら定期的に面 会し、状態を把握し早期退院に向けて医療機関と話し合ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時に、重度化及び看取りに関する指針に基づき事業所 における介護の考え方を説明している。利用者は重度化傾向に あるが、可能な限り事業所でケアができるよう取り組んでい る。直接ケアする職員は少なからず終末期ケアに対して不安を 感じているが、終末期ケアに関する講演参加、内部での勉強会 等に取り組んでいる。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指 針」を作成し、職員は家族のように親密になっている利用者を 最期までケアできるよう学習を重ねて、希望に添える支援に努 めている。今年度、町主催の看取りの講演会があり、家族と一 緒に職員が参加し、看取りの理解に繋がっている。職員は外部 研修に参加したり、他のグループホームと職員の職場体験交流 をしたりするなど、知識の向上や不安解消に努めている。今ま で看取りの経験はないが、協力医との医療連携体制を構築し、 事業所の看護師や職員がチーム体制で看取り支援が行えるよう 準備を整えている。現在、家族と話し合いをしながら終末期ケ アを行っている利用者がある。	看取りへの職員の不安解消に努めたり、協力医等との 医療連携を話し合い体制作りをしたりしているが、管 理者は、看取りは家族の協力なしには困難であるとい う認識を持っている。日頃から家族との良好な信頼関 係を築き、家族や医療関係者、職員が心をつなげて 終末期ケアに取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急講習会や勉強会等行い、急変や事故発生に慌てず適切な合行動が取れるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署指導のもと避難訓練を年二回実施している。スプリングクレー設置し、災害時に備え必要な備蓄も整備している。職員の緊急連絡網が必要時に確実に全職員に連絡がつくよう訓練している。 (外部評価) 年2回消防署立ち会いで、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練には地域住民にも参加してもらい、具体的な協力内容を伝えている。水害発生時には2階に避難するよう申し合わせをしている。地区防災訓練には事業所から職員等が参加し相互の協力関係を築いている。また、水や食料品などの備蓄品は2階に保管し、定期的に交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場を自分に置き換えて、嫌と思うことは、言わない、しない等、声掛けや接する態度い十分配慮しながら日々のケアを行っている。利用者を人生の先輩として一人ひとりを尊重した優しい暖かい声掛けや対応を心掛けている。特に入浴やトイレ時の声掛けに配慮している。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として尊重し、職員は常に自分に置き換えて考えるよう意識している。トイレ誘導時には他の利用者に気づかれないよう耳元で声をかける配慮をしたり、間に合わず失敗した場合にそっと声かけをしてトイレに誘導したりしている。また、丁寧な声かけを心がけ、利用者と呼ぶ場合には名字に「さん」付けをしている。例外的に「先生」など、利用者の好む呼び方をする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりと、利用者のペースに合わせて待ち、本人の思いや希望を汲み取っている。言葉にならない思いも心で感じ支援できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事時間、臥床時間等を各自に合わせて柔軟に対応している。一人ひとり心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望の利用者には、馴染の理容所にお連れしたり、又、2か月に1回は出張理容院の理容を支援している。又、起床時にはその日着る洋服等選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度化等により食事の下準備等は難しくなっているが、野菜や魚が届くと、利用者も一緒に料理方法を考えたり季節感を楽しんだりしている。職員と利用者は和やかに会話しながら一緒に食事をし、楽しく食事ができるよう支援している。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、職員が交代で調理をしている。食材は配達してもらい、牛乳等は近くのスーパーへ買い物に出かけている。利用者の誕生日に合わせて行う誕生会では、利用者本人の好きなものをメニューに加え、ケーキを用意してお祝いしている。職員は介助をしながら利用者と同じテーブルを囲み食事をしている。また、地域の季節行事に参加し、春は田楽、夏はそうめん流し、秋は芋炊きなどを食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の献立は栄養士が作成し、食事量、水分量のチェック表も活用している。摂取状態に応じ、粥、刻み、トロミ等対応し安全に食べてもらっている。可能な範囲で好みに応じた味付けや料理法を工夫する等、一人ひとりの希望に沿い、満足して頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄、消毒、歯磨き、うがい等見守りながら出来ないところを援助している。利用者の状態に応じ、スポンジブラシも使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人一人の排泄パターン把握し、プライバシーに配慮しながら声掛けを行っている。利用者の状況に応じてオムツ、尿とりパット使用しているが基本的にはトイレで排泄できるよう援助している。	
			(外部評価) 日中なるべくトイレで排泄できるよう支援している。一人でトイレに迷わず行けるよう、トイレ表示を分かりやすいよう工夫している。また、職員が話し合っ、1人ひとりに適した排泄用品を選択して使用し、夜間などの時間帯によっても違う用品を使用するなど、安心して排泄できるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを利用している利用者もいる。また、排泄チェック表を見ながら、緩下剤を使用するなど調整をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然排便できるよう、乳製品や植物繊維の多い食材の使用、おやつ工夫等行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3日に1回は入浴ができるよう体制を築いている。浴室にはリフトを取り付け、介助が必要な利用者も安心安全に入浴できる。入浴時は利用者と1対1でじっくりと向き合うことが出来、利用者の思いが聞け、新しい発見がある場面でもある。	
			(外部評価) 個別浴槽で一人ずつゆっくり入浴ができるよう支援している。リフトが設置されており、自力で浴槽に浸かれない利用者も安心安全に入浴することができる。入浴中には職員と1対1で話はずみ、歌を唄うなど楽しみながら入浴している。また、入浴を嫌う利用者には職員が交代したり時間を変えて声かけをしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や、就眠時の、気温や光、音に注意し気持ちよく安眠や休息ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬箋を綴じ、何時でも確認できる。職員が薬を準備し、内服時に名前、日付確認し確実な内服確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物量や、花の水やり、事業所周辺の草引きや散歩等一人ひとりの能力に合わせた役割が持てるよう努めている。又、月1回は季節の地域行事（田楽、そうめん流し、芋炊き等）を取り入れ喜んで頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎週町内の教会へ礼拝に知人の迎えで行かれる利用者や、家族と一緒に御見舞いに行かれたり、仏事に参加される利用者、希望される利用者を銀行や買い物等にお連れしたりと支援している又、散歩や月1回は行事を取り入れ季節を楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 天気の良い日には事業所周辺の土手を散歩できるよう支援しており、犬を散歩させている近所の人と挨拶を交わすことも多い。散歩時にはテニスコートを利用している中学生に手伝ってもらい、車いすを押してもらうこともある。季節に応じて、初詣や花見、七夕祭り、花火大会、運動会、紅葉狩りなど多彩な計画を立てて外出できるよう支援している。また、車いすの利用者も一緒に外出できるよう工夫しており、なるべく全員で外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理できる利用者、支援の必要な利用者等、一人ひとりの力量に応じた支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 郵便物の受け取りや投函、電話の代行を希望に沿って行っている。自立度の高い利用者は携帯電話を持ち自由に利用されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができる。自然の光もよく入る。窓にはブラインドを使用し、光や景色、風を遮ることなく、外からのプライバシーが守れるよう工夫している。 (外部評価) リビングは広々として明るく、2階からの眺めは絶景である。テラスに置かれたプランターで野菜づくりをしており、収穫した芋で芋煮会をすることもある。ゆったりと座れる食卓とソファのコーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。オープンキッチンから調理の音や匂いが伝わり、利用者は食事を楽しみにしている。音楽教師をしていた利用者があるため電子オルガンが置かれており、演奏を楽しむことができる。また、廊下にクリスマスツリーが置かれ、壁には行事の写真が飾られており、利用者や来所者を楽しませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、椅子、テーブル、テレビ等各所に配置し、大きな窓で開放感もある。思い思いにゆっくり過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはベッド、エアコンを備え付け、クローゼット等の収納スペースも確保している。使い慣れたタンスやテレビ等の持ち込み、ぬいぐるみや写真など思い出の品が飾られており心地よく過ごして頂けるよう工夫している。 (外部評価) 居室にはエアコン、電動ベッドが備え付けられ、床暖房が完備されている。クローゼットもあり、十分な収納スペースが確保されている。利用者は家具やテレビなどを持ち込み、家族の写真や職員から送られた手作りの色紙、自作の作品を飾るなど、居心地よく過ごせるよう利用者に合わせた空間づくりをしている。また、ベッドサイドに畳を敷いている居室もあり、利用者が少しの距離でも車いすから降りて歩行できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部はバリアフリー、手摺り、洗面手洗いの椅子、浴室のベンチ等安全かつ出来る限り自分で自分のことが出来る様工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600476
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	愛媛県喜多郡内子町平岡甲1243番地1 (TEL)0893-44-4555
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*ホームは利用者にとって慣れ親しんだ山や川に囲まれ、河川や公園に隣接しており、四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に立っている。又、ホーム内のリビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができ、自然の光もよく入る。
*職員は自主的に月1回の勉強会を行い、自己啓発やサービスの質の向上に努めている。
*1日が、気持ちよく始まり、気持ちよく終わる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小田川の土手沿いにある開設してから10年目を迎える事業所は、自然豊かな環境である。職員の年齢層は幅広く、日々の業務の中で経験豊かな職員が新入職員の相談に応じたり、指導したりする関係づくりができています。職員が持ち回りで講師を務める自主勉強会を開催しており、時間外にもかかわらず多くの職員が参加し、プロ意識を持って利用者へのサービスの向上を目指している。「澄みきった『あおぞら』のように、かかわる全ての人々が、精神的にも肉体的にも、健やかで、朗らかな生活がおくれるように支援いたします」という理念を作成し、利用者の目線で寄り添うことを大切にしながらケアをしている。利用者の希望に応じて、車いすの利用者などできるだけ全員で外出できるよう工夫している。また、家族のように親密になった利用者を最期までケアできるよう看取り等の勉強会を継続して実施しており、協力医と24時間体制の医療連携を整え、家族の協力を得ながら看取り支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 土居洋子

評価完了日 平成 26 年 11 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時から社長夫婦の想いをこめて作られた理念が掲げられている。職員は理念を踏まえて一人ひとりが具体的に個人目標を立て、常に理念を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「私たちは、澄みきった『あおぞら』のように、かかわる全ての人々が、精神的にも肉体的にも、健やかで、朗らかな生活がおくれるように支援いたします」という理念を開設当初に作成し、大切に継続している。職員は理念に基づいて個人目標を作成し、日々サービスの向上に努めている。管理者は職員に利用者目線で思いをくみ取りながら寄り添った支援をしてほしいと考えており、理念に沿った生活が送られ続けるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、回覧板等にて地域の行事などを把握し、積極的に参加している。花いっぱい運動の一環として事業所前の花の世話をしたり、地域の秋祭りに神輿や獅子舞いが来てくれたり、小学生が慰問に来てくれたり等地域との繋がりや交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地区の清掃デイや防災訓練などの地域行事に積極的に参加協力して交流をしている。花いっぱい運動の一環で自治会が事業所に花を持ってきてくれ、プランターに植えて利用者が水やりをして育てている。いかざき大風合戦では、地区住民が事業所名が入った凧を作って上げてくれ、利用者と一緒に観戦している。ギター演奏や日舞などボランティア、小学生などの訪問があり、利用者は交流を楽しみにしている。クリスマスにはサンタクロースの恰好をした幼児の訪問があり、和太鼓の演奏や交流をしている。また、他のグループホームとの合同大運動会には7名の利用者が参加し、利用者同士の交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 町内のグループホーム共同主体で、愛媛県在宅介護研修センターの先生による出前講演会を開催し、町内の民生委員様はじめ多数の近隣の方へ出席して頂いている。今後も広く地域に啓発しながら地域ネットワーク作りにおいても活かしていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 町担当者、地域代表者、家族等のメンバーで約2か月に1回開催し事業所の現状や行事、課題等を報告している。又、講演会や運動会を合わせて行うなど多くの方に参加して頂けるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、人権擁護委員、区長、自治会長、町担当者等の参加を得て開催している。会議に区長や自治会長が参加するようになってから事業所の町内会への加入が実現し、町内との交流がより深まっている。会議では事業所の近況や活動報告を行うほか、参加者と感染症など時折の課題について話し合いをしている。会議に合わせて開催する認知症講演会などには多くの地域住民の参加があり、看取りなどを地域で考える機会にも繋がっている。より多くの家族や駐在所など幅広く会議への参加の呼びかけも継続している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町担当者は運営推進会議にも参加し、事業所の現状を理解している。又利用者の生活福祉の支援上の課題等について相談したり研修のお知らせなどがあり、相互の協力関係築けている。介護相談員派遣事業の実施で、訪問活動も予定されている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に出席して情報交換をするほか、行政説明やアドバイスをもらうなど、事業所の実情を理解してもらっている。町役場は事業所の近くにあるため、相談がある場合は窓口に出向き指導を受けている。今年度から介護相談員が2名訪問してくれることになり、利用者との交流ができることを期待している。また、町内の7事業所の集まるグループホーム連絡協議会があり、相互の勉強会や意見交換をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所で行う内部研修や勉強会で、職員全員が身体拘束にあたる行為やその弊害について学習し、職員同士で話し合いながら身体拘束のないケアを実施している。又、職員同士で注意しながら言葉での拘束をしないよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では身体拘束のみならず、言葉での拘束もしないケアに取り組んでいる。管理者は申し送りやカンファレンス時に拘束について話し合ったり、禁止の対象となる具体的な行為を目に付く場所に貼ったりするなど、職員の意識づけに努めている。立位がとれず転倒の危険のある利用者には、夜間ベッド横にマットレスを敷いて対応している。また、気になることがある場合は、職員間で注意し合い利用者の自由な生活を支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行い職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行い職員全員で共有している。又、職員間での日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換を行い職員の意識向上を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて十分納得して頂くよう、説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 事業所に対する意見や要望は意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議を通じて意見や思いを表せる場を設けている。又、家族来訪時はお茶をお出しし気軽に会話しながら、会話の中から要望を聞き取るよう心掛けている。	
			(外部評価) 家族の面会時には必ず職員が声をかけ、利用者の様子を報告し意見を聞くようにしている。どの職員も家族と気軽に接することができおり、信頼関係づくりに努めている。運営推進会議にも家族の参加を呼びかけ、交流や意見交換の場に繋がっている。出された意見は職員間で話し合うなど、迅速に対応できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員は日々の支援の中での気づきや思いを、リーダーに話し管理者や代表者に伝える。代表者や管理者は出された要望等に必ず返答を行っている。年2回人事考課を行い、代表者は職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 職員は毎年理念に沿った個人目標を立て、管理者と年2回個別面談を実施しており、意見を伝えることができる。職員の年齢層は幅広く、日々の業務の中で経験豊かな職員が新入職員の相談に応じたり、指導したりする関係づくりができています。職員はプロ意識を持って利用者へのサービスを向上したいという姿勢で支援しており、事業所では勉強会や外部研修へ参加できる機会があり後押しをしている。また、経験に合わせた研修の機会が持てるよう、研修経費の助成等をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年2回（夏・冬）に人事考課を行い、職員と面談をして、自己評価、上司評価を行い、昇給、賞与等を決めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の知識、経験等を考慮して、レベルに合った研修に参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 町内のグループホーム連絡会にて月1回の管理者会を実施。又、町内グループホーム合同の運動会や講演会、職員勉強会を実施し、サービスの質の向上にも取り組んでいる。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問し本人の言葉に耳を傾けるようにしている。不安や要望等、言葉の端々からも感じ取り、納得のいく話し合いが出来るよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族の困っておられる事、不安なこと、要望等に耳を傾け、まず必要としている支援を見極めながら話し合い、受け止めるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人、家族と十分に話し合い、本人が自宅で暮らしを希望している場合は、在宅でのケアサービスの調整をしての暮らしの可能性等、家族やケアマネージャー等と話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は「同じ目線で自然体で接する」ことを心掛け、利用者と一緒に手作業等行いながら、利用者の経験を通しての教訓を教わったりしている。「ありがとう」を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に、近況報告等に留まらず、家に居られた頃の様子や要望等話して頂き、「利用者が自分らしく心地良く過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。又、電話や定期的な手紙でも関係を築く努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の訪問があったり、家族と一緒に馴染みの喫茶店へいかれたり、外泊もされる。馴染みの関係が継続するよう取り組んでいる。 (外部評価) 利用開始前に一人暮らしをしていた利用者には、自宅の近隣住民が気にかけて面会に来てくれている。毎週知人や牧師さんが事業所に迎えに来てくれ、一緒に日曜礼拝に出かける利用者もいる。また、利用者の希望に応じて、馴染みの理容室や銀行などに職員が付き添って出かけられるよう支援している。また、利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 不穏になられた利用者をそっと見守る雰囲気作りをしたり、トラブル時は勿論だが、楽しい時も利用者同士が関わり合えるよう間に入り、一緒に解決したり喜び合ったりし孤立がないよう努めている。又、性格や社交性等踏まえ、気の合う方との席の配慮も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けをし、継続的な関わりが保てるよう心掛けている。又、何時でもできる限り相談に乗りアドバイスが出来るよう心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用開始時に、本人、家族や関係者から様子を聞き取ったり、本人との日常会話の中や、特に入浴介護などの1対1になれる場面で思いを聞いている。が、重度化が進み聞き取ることが難しい利用者については、日常生活のしぐさや表情などから思いや意向をくみ取るように努めている。 (外部評価) 日頃から職員は利用者と同じ目線で接し、利用者の思いや意向を聞くよう努めている。利用者のことをよく理解するために、家族から利用者の生活歴、趣味、環境を聞き取っている。言葉で伝えにくい利用者には、利用者の行動や様子など普段の生活から推察し、思いをくみ取るよう努めている。入浴時には利用者と1対1となるため、思いを聞き取ることも多い。聞き取った内容は記録し、職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人、家族との話し合いの中で一人ひとりの生活歴や、馴染の暮らし方、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや様子観察、医療機関との連携等により、心身状態を把握し、一人ひとりに寄り添い、出来る力を見極め、ゆっくり待つ、見守る大切さを常に心掛けている。コミュニケーションを密に取り出来る限り本人の想いを汲み取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当をおき、中心となって毎月モニタリング実施。他の職員からの情報収集も行い、課題や気づき等を計画作成担当者に報告。計画作成担当者は本人、家族の意見要望を聞き、職員からの情報も交え現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者毎の担当職員を決め、毎月モニタリングを実施している。経過記録は介護計画の実施状況をチェックする様式になっており、モニタリングや計画の見直しに活用している。利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをするほか、6か月毎に介護計画の見直しをしている。作成した介護計画は手紙を添えて家族に送付して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の状態の変化や重要事項等は、赤青ペンを使用し注意しやすくしている。記録はその日の勤務者全員が関わるようにしている。その時に関わった職員が詳しく記入することにより、他職員も情報習得している。又、こまめにモニタリングも行い実践や介護計画見直しに繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院、買い物等への同行や、自宅付近へドライブしたりと本人や家族の要望に応じて柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要時速やかに対応できる地域資源の発掘や、関わりに努力している。必要に応じて地域資源と共同しながら支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を行っている。通 院介助は職員が対応し、必要に応じて家族にも同行してもらっ ている。協力医療機関の医師の往診が各利用者に月2回づつあ り、緊急時は夜間も対応してくれる。受診結果は、家族に報告 し一人ひとりの受診ノートに受診内容を記録している。 (外部評価) 入居時に希望するかかりつけ医を選択し、継続して受診するこ ともできる。近隣の病院がかかりつけ医の場合は、職員が付き 添い受診できるよう支援している。受診結果は家族に報告した り、家族から情報を聞いたりするなど、受診ノートに記載し相 互の情報共有ができています。また、月2回協力医の往診があ り、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族は安 心感がある。入退院時も職員が付き添い、適切な医療を受けら れるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 「いつもと違う」気づきを大切に、看護師に相談・報告しな がら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は家族と相談しながら、本人に関する情報の提供を行っ ている。消耗品の補充や洗濯物の管理等行いながら定期的に面 会し、状態を把握し早期退院に向けて医療機関と話し合ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時に、重度化及び看取りに関する指針に基づき事業所 における介護の考え方を説明している。利用者は重度化傾向に あるが、可能な限り事業所でケアができるよう取り組んでい る。直接ケアする職員は少なからず終末期ケアに対して不安を 感じているが、終末期ケアに関する講演参加、内部での勉強会 等に取り組んでいる。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指 針」を作成し、職員は家族のように親密になっている利用者を 最期までケアできるよう学習を重ねて、希望に添える支援に努 めている。今年度、町主催の看取りの講演会があり、家族と一 緒に職員が参加し、看取りの理解に繋がっている。職員は外部 研修に参加したり、他のグループホームと職員の職場体験交流 をしたりするなど、知識の向上や不安解消に努めている。今ま で看取りの経験はないが、協力医との医療連携体制を構築し、 事業所の看護師や職員がチーム体制で看取り支援が行えるよう 準備を整えている。現在、家族と話し合いをしながら終末期ケ アを行っている利用者がある。	看取りへの職員の不安解消に努めたり、協力医等との 医療連携を話し合い体制作りをしたりしているが、管 理者は、看取りは家族の協力なしには困難であるとい う認識を持っている。日頃から家族との良好な信頼関 係を築き、家族や医療関係者、職員が心をつなげて 終末期ケアに取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急講習会や勉強会等行い、急変や事故発生に慌てず適切な合行動が取れるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署指導のもと避難訓練を年二回実施している。スプリングクレー設置し、災害時に備え必要な備蓄も整備している。職員の緊急連絡網が必要時に確実に全職員に連絡がつくよう訓練している。 (外部評価) 年2回消防署立ち会いで、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練には地域住民にも参加してもらい、具体的な協力内容を伝えている。水害発生時には2階に避難するよう申し合わせをしている。地区防災訓練には事業所から職員等が参加し相互の協力関係を築いている。また、水や食料品などの備蓄品は2階に保管し、定期的に交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場を自分に置き換えて、嫌と思うことは、言わない、しない等、声掛けや接する態度い十分配慮しながら日々のケアを行っている。利用者を人生の先輩として一人ひとりを尊重した優しい暖かい声掛けや対応を心掛けている。特に入浴やトイレ時の声掛けに配慮している。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として尊重し、職員は常に自分に置き換えて考えるよう意識している。トイレ誘導時には他の利用者に気づかれないよう耳元で声をかける配慮をしたり、間に合わず失敗した場合にそっと声かけをしてトイレに誘導したりしている。また、丁寧な声かけを心がけ、利用者と呼ぶ場合には名字に「さん」付けをしている。例外的に「先生」など、利用者の好む呼び方をする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりと、利用者のペースに合わせて待ち、本人の思いや希望を汲み取っている。言葉にならない思いも心で感じ支援できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事時間、臥床時間等を各自に合わせて柔軟に対応している。一人ひとり心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2か月に1回は出張理容院の理容を支援している。又、起床時にはその日着る洋服等選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度化して支援が必要な利用者が多く、職員が寄り添い援助しながら一緒に食事をしている。嚥下困難な利用者には、トロミ、刻み食にする等工夫している。 (外部評価) 栄養士が献立を作成し、職員が交代で調理をしている。食材は配達してもらい、牛乳等は近くのスーパーへ買い物に出かけている。利用者の誕生日に合わせて行う誕生会では、利用者本人の好きなものをメニューに加え、ケーキを用意してお祝いしている。職員は介助をしながら利用者と同じテーブルを囲み食事をしている。また、地域の季節行事に参加し、春は田楽、夏はそうめん流し、秋は芋炊きなどを食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の献立は栄養士が作成し、食事量、水分量のチェック表も活用している。摂取状態に応じ、粥、刻み、トロミ等対応し安全に食べてもらっている。可能な範囲で好みに応じた味付けや料理法を工夫する等、一人ひとりの希望に沿い、満足して頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄、消毒、歯磨き、うがい等見守りながら出来ないところを援助している。利用者の状態に応じ、スポンジブラシも使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人一人の排泄パターン把握し、プライバシーに配慮しながら声掛けを行っている。利用者の状況に応じてオムツ、尿とりパット使用しているが基本的にはトイレで排泄できるよう援助している。	
			(外部評価) 日中なるべくトイレで排泄できるよう支援している。一人でトイレに迷わず行けるよう、トイレ表示を分かりやすいよう工夫している。また、職員が話し合っ、1人ひとりに適した排泄用品を選択して使用し、夜間などの時間帯によっても違う用品を使用するなど、安心して排泄できるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを利用している利用者もいる。また、排泄チェック表を見ながら、緩下剤を使用するなど調整をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然排便できるよう、乳製品や植物繊維の多い食材の使用、おやつ工夫等行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3日に1回は入浴ができるよう体制を築いている。浴室にはリフトを取り付け、介助が必要な利用者も安心安全に入浴できる。入浴時は利用者と1対1でじっくりと向き合うことが出来、利用者の思いが聞け、新しい発見がある場面でもある。	
			(外部評価) 個別浴槽で一人ずつゆっくり入浴ができるよう支援している。リフトが設置されており、自力で浴槽に浸かれない利用者も安心安全に入浴することができる。入浴中には職員と1対1で話はずみ、歌を唄うなど楽しみながら入浴している。また、入浴を嫌う利用者には職員が交代したり時間を変えて声かけをしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や、就眠時の、気温や光、音に注意し気持ちよく安眠や休息ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬箋を綴じ、何時でも確認できる。職員が薬を準備し、内服時に名前、日付確認し確実な内服確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物量や、新聞紙を使つての工作等、楽しみながらしてもらっている。天気の良い日の散歩、月1回は季節の地域行事(田楽、そうめん流し、芋炊き等)を取り入れ喜んで頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族と一緒に馴染の喫茶店へコーヒーを飲みにいかれたり外泊されたりする利用者もおられる。希望される利用者を買物等にお連れしたりと支援している又、散歩や月1回は行事を取り入れ季節を楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 天気の良い日には事業所周辺の土手を散歩できるよう支援しており、犬を散歩させている近所の人と挨拶を交わすことも多い。散歩時にはテニスコートを利用している中学生に手伝ってもらい、車いすを押してもらうこともある。季節に応じて、初詣や花見、七夕祭り、花火大会、運動会、紅葉狩りなど多彩な計画を立てて外出できるよう支援している。また、車いすの利用者も一緒に外出できるよう工夫しており、なるべく全員で外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理できる利用者、支援の必要な利用者等、一人ひとりの力量に応じた支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 郵便物の受け取りや投函、電話の代行を希望に沿って行っている。毎週日曜日に娘さんから電話があり楽しめる利用者が居られたり、帰宅願望強くなると家族に電話し、話をして落ち着かれる利用者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの壁二面は窓が連続で配置され、外の景色がパノラマ状に見ることができる。自然の光もよく入る。窓にはブラインドを使用し、光や景色、風を遮ることなく、外からのプライバシーが守れるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) リビングは広々として明るく、2階からの眺めは絶景である。テラスに置かれたプランターで野菜づくりをしており、収穫した芋で芋煮会をすることもある。ゆったりと座れる食卓とソファのコーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。オープンキッチンから調理の音や匂いが伝わり、利用者は食事を楽しみにしている。音楽教師をしていた利用者があるため電子オルガンが置かれており、演奏を楽しむことができる。また、廊下にクリスマスツリーが置かれ、壁には行事の写真が飾られており、利用者や来所者を楽しませてくれている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ、椅子、テーブル、テレビ等各所に配置し、大きな窓で開放感もある。思い思いにゆっくり過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはベッド、エアコンを備え付け、クローゼット等の収納スペースも確保している。使い慣れたタンスやテレビ等の持ち込み、ぬいぐるみや写真など思い出の品が飾られており心地よく過ごして頂けるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、電動ベッドが備え付けられ、床暖房が完備されている。クローゼットもあり、十分な収納スペースが確保されている。利用者は家具やテレビなどを持ち込み、家族の写真や職員から送られた手作りの色紙、自作の作品を飾るなど、居心地よく過ごせるよう利用者に合わせた空間づくりをしている。また、ベッドサイドに畳を敷いている居室もあり、利用者が少しの距離でも車いすから降りて歩行できるよう工夫されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内部はバリアフリー、手摺り、洗面手洗いの椅子、浴室のベンチ等安全かつ出来る限り自分で自分のことが出来る様工夫している。</p>	